

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり			元年度事業・施策評価結果		責任者	建設部 総合開発課長	
施策名	にぎわい創出に向けた再開発の推進			成果	コスト			
事務事業名	ガーデンふ頭再開発の推進			継続	維持	維持	連絡先 052-654-7971	
目的	対象(誰・何を)	ガーデンふ頭					事業 期間	平成22年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	みんなが楽しめる賑わい空間の形成、ゆったりと過ごせるくつろぎ空間の形成を目指します。						
概要	「ガーデンふ頭再開発基本計画」に位置付けられている「にぎわいの創出」と「くつろぎの場の提供」の実現のため、名古屋港水族館の集客力強化や緑地・広場の機能向上などについて、民間事業者への意見聴取を行うとともに、国や港湾関係者との合意形成を図りながら、再開発の基本的な内容を具体化し、再開発の実現に向け取り組めます。						根拠 法令等	
令和2年度の実施予 定	新型コロナウイルス感染症(以下、「感染症」という。)の影響による社会経済情勢やにぎわいの回復状況等を見極めつつ、関係者との調整や民間事業者への意見交換を行いながら、再開発の基本的な内容の具体化に取り組めます。						実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
							関連 シート	

2 DO(実施)

令和2年度に実施した 内容・結果	社会経済情勢の動向やガーデンふ頭のにぎわいの回復状況を注視し、事業化の見通しを探りながら、開発エリアの確保に向けた港湾業務機能の移転のための関係者との調整、国有港湾施設の取得に向けた国との調整、既存施設の利活用の検討など、再開発の基本的な内容の具体化に取り組ましました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	合計	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	24,732	19,624	10,609	54,965	令和2年度までの総事業費:299,950千円
人件費	千円	34,571	34,403	34,345	103,319	
合計	千円	59,303	54,027	44,954	158,284	

3 CHECK(検証)

成果目標名		30年度	元年度	2年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
ガーデンふ頭再開発の進 捗状況(全3工程) (進行管理型)	目標	1	1	1	3	以下 ①基本計画の策定 ②基本的な内容の具体化 ③ 事業者選定・事業化 ※感染症の影響による成果目標の見直しについて 検討しましたが、令和2年度の変更はありません。		
	実績	1	1	1				
	事業進捗状況(2年度)			順調				やや遅れ・遅れ
	目標							
	実績							
	事業進捗状況(2年度)			順調				やや遅れ・遅れ
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	基本的な内容の具体化に向け、関係者との合意形成に向けた調整や各種検討に取り組ましました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価に関する説明							
必要性 本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/>	港のにぎわいの創出に向け、ガーデンふ頭は親しまれる港づくりの拠点として再開発を推進していく必要があります。また、県民・市民からのニーズも高く、再開発を実施していく必要があります。						
有効性 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>	ガーデンふ頭を再開発することによって、更なる魅力ある港湾空間を形成することができ、にぎわいの創出につながる						
期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	と考えています。						
効率性 最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	最小のコストで事務を行っています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	交流拠点であるガーデンふ頭において、集客力強化や機能向上などを図ることで、みなとの一層のにぎわいや魅力の創出に向けた再開発を推進する必要があるため。
課題		3年度以降の取組	
再開発の推進に際しては、感染症の影響を注視していく必要があります。また、民間事業者との意見交換を重ねながら事業化の見通しを探っていく必要があるとともに、開発エリアの確保に向けて関係者との調整を進めていく必要があります。		引き続き、感染症の影響による社会経済情勢の動向やガーデンふ頭のにぎわいの回復状況を注視し、民間事業者との意見交換を継続しながら、ふ頭全体の一体開発に限らず事業化の見通しを探っていくとともに、開発エリアの確保に向けた関係者との調整を進めるなど、再開発の基本的な内容の具体化に取り組めます。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		元年度事業・施策評価結果		責任者 建設部 金城・中川・南5区担当課長
施策名	にぎわい創出に向けた再開発の推進		成果	コスト	
事務事業名	中川運河にぎわいゾーンの魅力向上		継続	維持	維持
目的	対象(誰・何を)	中川運河の北幹線・北支線・東支線			事業期間 平成30年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	ささしまライブ24地区の開発などと連携し、都心地域に集まる人びとが訪れたいような「港と文化を感じる都心のオアシス」の形成をめざします。			
概要	「中川運河再生計画」で位置付けられている「にぎわいゾーン」において、護岸の老朽化対策及びプロムナードの整備を行い、東支線においては、護岸補修及び遊休地の有効活用を図るとともに、水質改善に向け河床に覆砂を行います。				根拠法令等
令和2年度の実施予定	地域の理解を得ながら、護岸の改良・補修の実施、覆砂の設計、プロムナードの設計及び視点場の整備を予定しています。				実施義務 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
					関連シート

2 DO(実施)

令和2年度に実施した内容・結果	老朽化した護岸の改良・補修を実施するとともに、プロムナード整備に向け実施設計を行いました。また、東支線では、運河をながめられる視点場整備の工事を締結するとともに、底層改善に向け覆砂の実施設計を行いました。					
コスト	単位	30年度	元年度	2年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	65,815	196,361	188,362	150,179	
人件費	千円	-	17,431	17,431	17,431	
合計	千円	65,815	213,792	205,793	161,800	

3 CHECK(検証)

成果目標名	30年度	元年度	2年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
中川運河覆砂進捗状況(全4工程) (進行管理型)	目標		1	2	4	東支線における覆砂の実施において①現況調査、②設計、③工事着手、④整備までの工程	
	実績	1	1	2			
		事業進捗状況(2年度)			順調・やや遅れ・遅れ		
護岸補修延長(全1,100m) (進行管理型)	目標		350	600	1,100	東支線における既設護岸の補修延長(※最終年度は、令和4年度とします)	
	実績	83	500	500			
		事業進捗状況(2年度)			順調・やや遅れ・遅れ		
プロムナード整備延長(全2,320m) (進行管理型)	目標		-	-	1,540	北支線・北幹線におけるプロムナードの整備延長(※令和3年度より整備予定)	
	実績		-	-			
		事業進捗状況(2年度)			順調・やや遅れ・遅れ		
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	東支線の覆砂の設計や、プロムナードの実施設計を行いました。また、東支線における護岸補修及び視点場整備は当初発注工事の入札が不調だったことから、令和2年度は未整備となったものの、年度末に契約を締結しました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	○	にぎわいの創出を図るため、引き続き、にぎわいゾーンの魅力向上に取り組む必要があります。					
有効性	○	にぎわい施設の誘導が進む沿岸用地の護岸の老朽化対策やプロムナードの整備や覆砂を通じて、「にぎわいゾーン」の魅力向上が図られます。					
効率性	○	コストが最小になるよう事業を進めています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	3年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	中川運河にぎわいゾーンにおいて、人々が水辺に親しむ機会の創出に努めることで魅力を向上させ、にぎわいや魅力の創出に向けた中川運河の再生を図る必要があるため。
課題		3年度以降の取組	
護岸の改良・補修、プロムナード及び視点場の整備、覆砂の円滑な実施に向け、地域の理解を得ながら行っていく必要があります。		地域の理解を得ながら、老朽化した護岸の改良・補修、プロムナード及び視点場の整備、覆砂に取り組めます。	